

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会  
三神農業振興センター

「稲作情報（第8号）」について（送付）  
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

## 稲・大豆作情報（第8号）

### 1. 情報田生育調査結果について

#### (1) 耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神崎市)
移植日(月日)	6月11日 (平年：6/9)	6月18日 (平年：6/20)	6月23日 (平年：6/19)
栽植密度(株/m <sup>2</sup> )	15.6 (52.1株/坪)	16.8 (55.9株/坪)	18.7 (62.2株/坪)

#### (2) 調査結果（8月22日現在）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)	出穂期 8/14	91.7	80.4
平年値(平年比)		90.5(101)	81.0(99)
莖数(本/m <sup>2</sup> )	止葉葉位 13.5	472	627
平年値(平年比)		426(111)	535(117)
葉齢(L)		15.2	14.9
平年値(平年差)		15.1(+0.1)	14.7(+0.2)
葉色(SPAD値)		35.4	35.3
平年値(平年差)		36.2(-0.8)	36.7(-1.5)

#### 概況

気象（8月18日～8月22日までの期間）  
【平均気温】平年より2.1℃高い。 【日照時間】平年比118%と多い。  
【降水量】平年比8%と少ない。

#### 生育（平年と比較して）

草丈：「さがびより」、「ヒヨクモチ」は平年並み。  
莖数：「さがびより」、「ヒヨクモチ」は多い。  
葉齢：「さがびより」、「ヒヨクモチ」は平年並み。  
幼穂長：「ヒヨクモチ」で10mm程度。

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7か年の数値を8月22日に換算し、そのうち最高、最低を除いた5か年の平均値。

「ヒヨクモチ」はR1,2年データ欠損のため、平年値はH28～R4(R1,2除く)5か年の平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

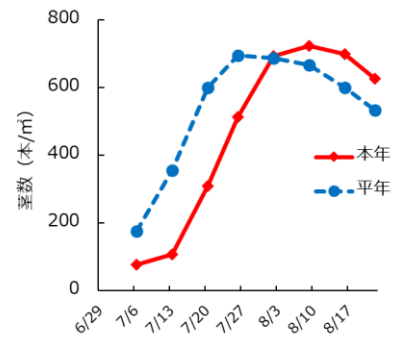
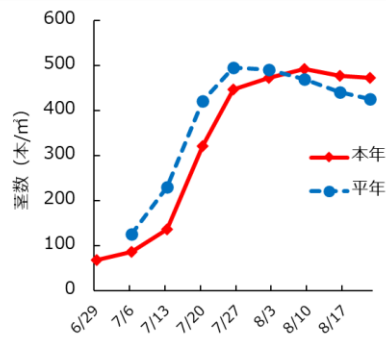
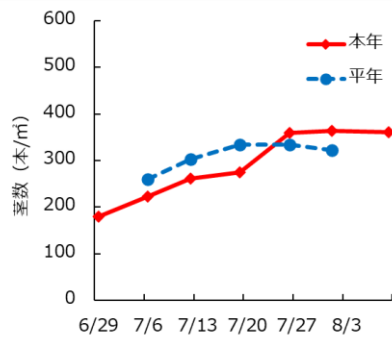


図 茎数の推移 (左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ)  
 農業試験研究センター米づくり情報8号 8月21日(抜粋)

### 本年産水稻の生育状況(8月21日)

移植日	項 目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
6月19日	夢しずく	本年 平年 本年比(差)	出穂期:8月17日 出穂期:8月17日 ±0				[気象] 8月14日~8月20日まで ◆平均気温…やや高い(平年差+0.9℃) ◆日照時間…やや短い(平年比98%) ◆降水量…少ない(平年比42%) [生育] ◆草丈 「ヒノヒカリ」は低く、「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや高い。 ◆茎数 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は多く、「さがびより」はやや多い。 ◆葉齢
	ヒノヒカリ	本年 平年 本年比(差)	89.0 95.8 93	501 447 112	14.1 14.1 ±0	36.9 31.3 +5.6	
6月20日	さがびより	本年 平年 本年比(差)	85.6 86.7 99	464 446 104	14.7 14.5 +0.2	38.2 36.2 +2.0	「夢しずく」の主稈葉数は平年よりやや多かった(主稈葉数:本年14.1、平年13.4)、葉齢は「ヒノヒカリ」「さがびより」で平年並み、「ヒヨクモチ」でやや進んでいる。葉耳間長は「ヒノヒカリ」で+5.4cm、「さがびより」で-6.4cmとなっている。 ◆葉色(SPAD値) 「ヒノヒカリ」「さがびより」は高い。「ヒヨクモチ」はやや高い。 ◆幼穂長 「ヒヨクモチ」8/22時点 22.8mm
	ヒヨクモチ	本年 平年 本年比(差)	77.3 75.3 103	712 533 134	15.4 14.8 +0.6	36.8 35.6 +1.2	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水管理は、穂肥施用時の湛水管理を除き、引き続き間断灌水を行う。</li> <li>○ トビイロウンカ、コブノメイガ、いもち病、紋枯れ病の発生に注意し、的確な防除を行う。</li> <li>○ 「ヒヨクモチ」の穂肥施用が済んでいない所は早急に施用する。</li> </ul>						

## 2. 普通期水稻の今後の管理について

トビイロウンカは圃場ごとに発生状況が異なるため、防除後も発生状況を注視し、必要に応じて臨機防除を行う。  
収量・品質に影響を及ぼす時期であるため、圃場管理を適正に行う。

### (1) 水管理

- ・「夢しずく」は乳熟期ごろ、中晩生品種は穂ばらみ期ごろとなっている。  
水分ストレスに敏感な時期となっているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を実施し、湿潤状態を保つ。
- ・落水期間が長く、過乾燥となっている圃場が散見される。特に中晩生品種では水を必要とする時期なので、減水深の大きい圃場では湛水期間を長くとるなど、水を切らさないように注意する。

### (2) 穂 肥

- ・「ヒヨクモチ」は幼穂形成～穂孕み期となっている。表 1 を参考に 2 回目の穂肥を施用する。

表 1. ヒヨクモチの穂肥時期と穂肥量

肥料	穂肥 I 施用量 (kg/10a)	施用時期 の目安	穂肥 II 施用量 (kg/10a)	施用時期の目安	実肥施用量 (kg/10a)
LPBB804	40 (平坦:JA さが東部地区)	8月20日頃	なし	—————	なし
	35 (山麓:JA さが東部地区)				
	30 (JA 神埼地区)				
BB602	25 (平坦:JA さが東部)		10 (JA さが東部)	8月25日 ～ 27日 (穂肥 I の10日後)	10 (JA さが東部)
	25 (JA 神埼地区)		15 (JA 神埼地区)		

注1) 大豆跡の圃場では、穂肥の散布を控えるか、上記施用量の5割未満に減肥して施用する。

注2) 実肥を施用する場合は、穂揃期(平年:9月8日～10日頃)に施用する。

### (3) 病害虫防除

- 「病害虫発生予察情報第4号(7/27発表)」による主な病害虫の8月予報は以下のとおり。  
各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

#### ① トビイロウンカ・・・やや多

- 現在、防除適期となっている。
- 防除実施後も各圃場での発生状況に注意し、発生がみられる場合には臨機防除を実施する。

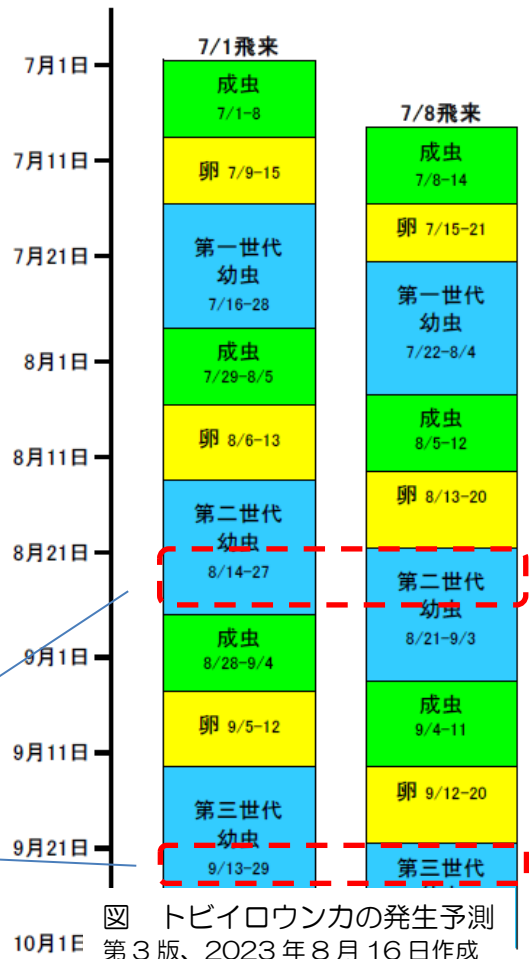
※本年は多発生条件となっており、今後急増する場合もあるため、発生状況に注意し、適期防除に努める。防除適期は「幼虫ふ化揃い期」

- 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター

防除適期②  
8/21~8/26頃

防除適期③  
9/21~9/26頃  
農薬の使用晩限に注意



#### ② 紋枯病・・・やや多

- 高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が発生しやすくなるため注意する。
- 病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を検討する。（液剤・粉剤の場合は、出穂前10~20日間を目安）



写真 紋枯病の病斑  
(前年撮影したもの)

#### ③ コブノメイガ・・・やや多

- 一部圃場で葉の食害がみられる。
- 止葉を含む上位3葉に被害が出ると減収につながるため、圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の7日後）に防除を実施する。

#### ④ 斑点米カメムシ・・・やや多い

- 耕種的な防除として、畦畔除草を出穂10日前までに行う。  
（「夢しずく」～「さがびより」は行わない。「ヒヨクモチ」は8月27日頃まで）
- 乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に農薬防除を行い、多発生の場合はその7~10日後に2回目防除を行う。
- 防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。









### 3. 大豆の今後の管理について

7月15日播種で本葉11~12葉、7月20日以降播種で本葉8~9葉程度となっている。

播種時の圃場の水分条件、その後の降雨の有無により圃場間での生育格差が大きい。今後、大豆の生育とともに必要とする水量が多くなるため、暗渠排水の栓を閉めるなどして土壤水分の確保を図る。

#### (1) 今後の天候について

参考) 週間天気予報 (佐賀県8月22日17時時点 佐賀地方気象台より)

日付	今夜 22日(火)	明日 23日(水)	明後日 24日(木)	25日(金)	26日(土)	27日(日)	28日(月)	29日(火)	
佐賀県	晴後曇 	曇後時々雨 	曇 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇時々晴 	晴時々曇 	晴時々曇 	
降水確率(%)	-/-/20	20/50/50/40	40	50	50	30	20	20	
信頼度	-	-	-	C	C	B	A	A	
佐賀 気温 (℃)	最高	-	31	33 (31~34)	33 (31~35)	34 (32~36)	34 (32~36)	35 (32~36)	34 (32~36)
	最低	-	27	25 (24~26)	25 (24~27)	25 (23~27)	25 (23~26)	25 (23~26)	25 (23~27)

#### (2) 中耕・培土の実施

- 7月下旬播種では、2回目の培土時期となっている。初生葉(子葉の上の葉)が隠れる程度まで2回目の培土を行う。
- 6月下旬播種ですでに開花期を迎えている圃場や、7月上旬播種で間もなく開花期を迎える圃場では、断根による根の活力低下の恐れがあるため、今後の培土は行わない。

※気温が高い日中に培土すると、土壤水分の蒸散を助長し、乾燥害を生じる恐れがあるため、作業は夕方以降が望ましい。

#### (3) 除草剤について

- 雑草の発生が多い圃場では中耕培土後に雑草の発生に応じて生育期の茎葉処理剤を散布する。
  - イネ科の残草が多い場合はポルトフロアブル、ナブ乳剤、セレクト乳剤。
  - 広葉の残草が多い場合は大豆バサグラン、アタックショット乳剤等。大豆の2葉期~開花前まで
- アサガオ類、ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内侵入防止に努める。また、圃場内に発生している場合は、発生が少ないうちに雑草の開花や結実前までに茎葉処理剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。

#### (4) 病害虫対策

- 「病害虫発生予察情報第5号(8/9発表)」による主な病害虫の8月下旬予報は以下のとおり。各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

##### ①ハスモンヨトウ・・・やや多

- 気象庁の1ヶ月予報では「気温は高く、降水量はやや多い」とされており、多発生の条件となっている。
- 防除適期は、若齢幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中齢幼虫以上(体長約2cm以上)になると防除効果が低下する。
- 防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている場合は再防除が必要。

## ②カメムシ類・・・やや多

- 気象庁の1ヶ月予報では「気温は高い」とされており、多発生の条件となっている。
- 防除適期は、莢の伸長初期から子実肥大中期である。

## ③その他

- 管内の8月下旬調査でオオタバコガやウワバ類と思われる食害が確認されている。
- ハスモンヨトウによる白変葉と異なり、葉に穴が開くように食害されている場合は、オオタバコガ等の虫害と考えられる。
- オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンの感受性が低下しているため、使用を避ける。



ハスモンヨトウ



オオタバコガ



シロイチモジヨトウ

# 令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

三神農業振興センター

